

ハチについて

ハチは、草木の害虫である蝶や蛾の幼虫などの昆虫を捕食したり、植物の受粉の手助けをするなど、自然界のバランスを保つうえで重要な働きをしている昆虫です。

最近では、巣を作る場所に人間が立ち入る、あるいは、人間が暮らしている場所に巣を作るなど、ハチと人間が接することが多くなってきたため、巣を刺激し、刺されるというトラブルも起こっています。

しかし、スズメバチ以外は本来攻撃性は少なく、おとなしい昆虫であるため、ハチの種類と特徴を理解し、できる限りそのままにしてあげましょう。

ハチの種類と特徴

スズメバチ



スズメバチの巣

スズメバチは、ハチのなかでもおおむね20~40mmと最も大きく、巣に近寄るだけで、攻撃を仕掛けてくることがあります。4月ごろから11月にかけて、きれいなマーブル模様の丸い巣を作ります。冬になると新女王バチ以外はすべて死んでしまい、新女王バチが土中や朽木などで越冬します。巣は1年で使い捨てられ、新女王バチは新たな巣を作ります。

ミツバチ



ミツバチの分封の様子

ミツバチは、12mm前後と小さく、春になると女王バチと働きバチの一部が新しい巣を作るために巣分かれ（分封）し、木の枝などに女王バチを中心として働きバチが塊となり、新しい巣を作るのに条件のよい場所を探す行動をとります。よい場所が見つかるまで数時間から数日の間、同じ場所に群れます。分封の間は攻撃性がないため、そのまましておきましょう。

古い巣は新女王バチが引き続き使用します。ミツバチはむやみに人を攻撃してくることはありません。

アシナガバチ



アシナガバチの巣

アシナガバチは、おおむね15~25mmであり、4月ごろから家の軒下や樹木の枝に巣を作り、巣はシャワーヘッドのような形をしています。スズメバチ同様、女王バチ以外は越冬できず、巣は1年限りで使い捨てられます。巣を刺激しなければ、襲ってくることはありませんので、人の手が届かないところに営巣された巣については、できる限り駆除せずそのままにしてあげましょう。

アシナガバチの巣の駆除について

アシナガバチは、大群で多数の人を襲う危険性がなく、また、駆除する場合には容易に駆除を行えるため、**大阪市においては、駆除は行っていません。**

駆除が必要な場合には、次の方法により駆除してください。ただし、危険と感じた場合には駆除を止め、専門駆除業者(有料)に依頼しましょう。

- ①ハチは暗くなると巣に戻り、活動が鈍るため、夜に駆除作業を行います
(懐中電灯を使用する場合には、巣に光を直接当てないようにしましょう)
- ②駆除の際には、長袖、長ズボン、軍手、帽子を着用し、なるべく体の露出をなくします
- ③市販の殺虫剤（ハチ用ではなくても、ゴキブリ用や蚊、ハエ用でも可能）をハチの巣めがけて、風上から一気に噴射します
- ④すべてのハチが落ちて死んだことを確認した後、ハチの巣を棒で落とします
- ⑤ハチ及び巣は素手で触れずに、ビニール袋に集めてごみとして捨てます

ハチに刺されないために

- ハチの巣に近づかないようにしましょう
- むやみにハチの巣を刺激しないようにしましょう
- 庭木の剪定の際にハチの巣がないか注意しましょう
- 天日干しの洗濯物にハチが紛れ込む場合があるので、取り入れの際には注意しましょう

ハチに刺されたら

◆応急処置◆

- ①傷口から毒を強くしぼり出しましょう
(ミツバチに刺された場合には、針が残っているので抜きましょう)
- ②傷口を流水で洗いましょう
- ③刺されたところが、かゆみや発赤など炎症を起こしている場合は、ジフェンヒドラミンなどの抗ヒスタミン薬が配合された軟膏を塗るとよいでしょう（アンモニア水やオシッコは効きません）
- ④傷口を氷などで冷やしましょう
しばらく様子を見て、症状が改善しない場合、又は、次のような場合は、すぐに医師の診察を受けましょう
 - アレルギー体質及びその恐れのある人
 - 発疹、発熱、めまい、動悸、呼吸困難、全身むくみ、吐き気などの症状がある場合
 - 刺された部位が数箇所ある場合
 - 目に毒が入った場合

お問い合わせ先

詳しくは：大阪市ホームページをご覧ください。（サイト内検索にて [ハチ](#) をクリック）